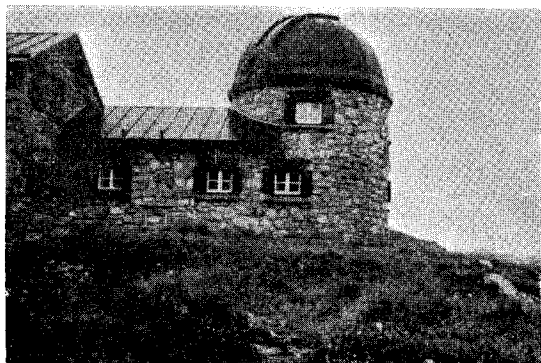


スイスのアローザ・コロナ観測所

長 沢 進 午*

ありがたいことに京都大学からこの Pic-du-Midi 天文台にきて研究をしておられる川口市郎君がわざわざ天文台の車と一緒にのってパニエールから Tournay 駅まで来て下さって、21 時 10 分発のジュネーブ行の列車にのせてくれる。8 月 7 日から 11 日まで Pic-du-Midi 天文台のケーブルカーの出発点の町ラモンジーで「コロナ観測の標準化」に関する小さい国際会議に出席しての帰りである。ジュネーブ着が翌 12 日の朝 9 時過ぎ。さすが平和の国スイス、国内線に乗換える途中で入国手続きが簡単にすむ。モスコーとパリの間のまる 2 日間の汽車の旅でソ連、ポーランド、東ドイツ、西ドイツ、ベルギー、フランス、さらに東西ベルリンをへだてる壁を越えているからうんざりする程何回もお国柄でちがう入出国手続きをすませてきたあとだけに大変快適である。チューリッヒ行の列車でも朝のすがすがしい気持ちも手伝ってか、設備も、まわりの乗客も、窓外のレマン湖の景色も皆気持ちよい。3 時間半程でチューリッヒの中央停車場。コロナ観測所のあるアローザはここから東南 120 km 位離れたアルプス山中の町。ホテルからコロナ観測所のワルドマイヤー教授に電話して「明日 7 時発のかくかくの列車で山まで来てくれ。アローザの駅まで出迎えるから」という段取りがきまる。翌 13 日は日曜日、予定通り 7 時中央停車場を出発、汽車は美しいチューリッヒ湖を左に見ながら南下する。1 時間 40 分で Chur 駅着、構外に出ると目の前の大通りに美しい色の可愛らしいアローザ行の登山電車が待っている。街をはずれるとすぐ山の中、約 1 時間で高度差 1,100 m を登ってアローザに着く。案内書にスキーの楽園とうたっている冬のスキー場の町である。この町からケーブルカーが二本出ている。リフトはさらに数多くある。出迎えてくれたワルドマイヤー教授と話しながら 5 分も歩くとケーブルカーのひとつで標高 2653 m のワイスホルン峰行の駅につく。アローザは 1714 m の高さ。コロナ観測所はこのケーブルの途中の駅で下りて 10 分も歩けばよい。高さは 2050 m、正しい地名は Tschuggen である。観測所には水も、電気も、電話の便もある。

この辺は一带ならかな起伏の斜面で牧草がしっかりと黒い土を包んでいる。背景のアルプスの山々とその間に遠く続く多くの谷々とスケールが誠に大きいので観測所は小さく見える。日曜だということに見渡しても人影がない。自動車道路はアローザまででこの附近は静かなも



アローザ・コロナ観測所

のである。先年乗鞍を訪ねられた教授がバスの終点附近の人と車の混雑を見てこれでコロナの観測が出来るかと本当に心配してくれたわけがよくわかる。ケーブルの終点のワイスホルン頂上には大きな食堂があってアルプスの景観を一望の下におさめる絶好の見晴し台になっているらしく、ケーブルカーの底には水槽をとりつける専用の装置が見える。この食堂に水を供給するためである。どうもケーブルカーの方が自動車道路に比べて自然をこわす程度が一桁は小さいのではないか。「天気よかつたらあそこまでつれて行ってやるのだが」と頂上を覆う雲を見ながら気の毒がってくる。

この観測所はワルドマイヤー教授が一人で本当に何もかもやっているところである。20 cm の大型コロナグラフは修理のためツアイスの工場の方において見られなかったが、どの観測装置も一人で操作できるよう工夫されている。外観は黒ずんだ石積の建物だが、内部は昨日完成したといってもおかしくない程きれいだ。壁は白木の板、木の節が自然のもようになっている。調度も建物に合った白木のどっしりとした土地の指物師の作、10 年以上もたっていると聞いても本当とは思えない。汚れもきずも全く見当らない。

リオ先生がピックではじめてから間もなく若かりし教授がコロナの常時観測をはじめられたゆかりの土地。居住用の建物が出来たのは観測をはじめから 5 年後の 1944 年のこと。今迄の長い間の御苦心は教授の「太陽コロナ」の第 1 巻と第 2 巻とになって出版されているが、この長い間の唯一の助手は献身的に夫君を助けられた夫人であろう。「時々炊事をしにきてくれるので助かる」と教授のいうその夫人がちょうど教授の母堂と御一緒にここに来ておられ、皆様の仲間に入れて頂いて昼食の御馳走になる。夫人は博士の学位をもつ民族学の研究

* 東京天文台

者で、チューリッヒで教鞭をとっておられるとあとでうかがった。とに角ドイツ語の苦手の私には夫人が母国語のように英語を話されるので非常にありがたかった。

「こちらを整理して明日チューリッヒに帰るから、明後日チューリッヒ天文台に来てくれ」といってケーブルカーの最終便に間に合うよう駅まで教授が送って来て下さる。

火曜の午前に大学の天文台に教授を訪ねて案内をしてもらい、夕方のイタリー行の汽車にのるまでの午後の数時間をドクトル・ワルドマイヤー夫人にチューリッヒの町を案内していただいた。「チューリッヒ湖の水はどこに流れてゆくか?」「ライン河である」といった情ない問答の出るほどに物をしらない私には全く勿体ないガイドで恐縮の至りと思っている。夫人のおかげで一人ではとても入れない古い教会の中も見、山になれた健脚で美しい湖畔の公園の道にそって有名なリードベルグ博物館まで案内していただく。途中歩きながらスイスの社会福祉の話、チューリッヒの町の変遷、ペスタロッチのこと、子供の頃よんで楽しかったヨハンナ・スピリの「アルプスの少女」「ハイジ」の舞台はアローザの附近であることなど楽しい話を沢山うかがうことが出来た。博物館では広重の版画のことなど質問されて答へに苦しみ、最後



ワルドマイヤー教授夫妻

に陳列されてあった仏像の前で仏様の耳はどれも皆長いがあればどういうわけかと小声でたずねられこれまた大いに返事に困ったことを付け加へておきたい。

宇宙時代の科学教育におくる

ASTRO 天体望遠鏡と

ドーム



カタログ本誌名
付記 〒50円
ご送付のこと

¥5,500~150万円
まで各種取り揃え
てあります。

ASTRO 光学工業株式会社

本 社 東京都千代田区大手町2-2 野村ビル
TEL (231) 3028・3029
サービス 東京都豊島区池袋6-1915
センター TEL (982) 1321・6209